

# 構真柱建込み工法

構真柱建込み工法は、杭頭部のまだ固まらないコンクリート中に鋼製柱を建込む工法で、建築の逆打ち工法に用いられます。

逆打ち工法とは、地下躯体の施工を仮設の切梁支保工を設けることなく、建物本体を山留め支保工として利用しながら、上階から下階へと順次躯体の構築を繰り返していく工法です。構真柱は本設柱にも使用されるため、高い建込み精度（特に傾斜）が要求されます。当社では、構真柱の姿勢を制御するためのジャッキを工夫して、多様な施工条件に対応しています。



▲現場施工例



▲鋼製柱建込み治具例

